

終活における 支援のあり方検討会 第2回会議

令和6年8月29日
北九州市長寿社会対策課

本日の議事

- 1 第1回会議の振り返り 18:40~18:45
(5分)
- 2 アンケート調査結果 18:45~19:00
(15分)
- 3 ヒアリング調査結果 19:00~19:05
(5分)
- 4 終活支援の方向性 19:05~19:55
(50分)
- 5 その他 19:55~20:00
(5分)

1 第1回会議の振り返り

資料2 机上配布

2 アンケート調査結果

アンケート調査結果

調査の概要

1 調査対象者

(1) 一般市民 543人

(内訳)

○市政モニター	96人
○一般市民	447人

(2) 支援者 263人

(内訳)

○民生委員・児童委員	119人
○弁護士	11人
○司法書士	10人
○社会福祉士	13人
○医療機関関係者	2人
○介護事業関係者	107人
○その他	1人

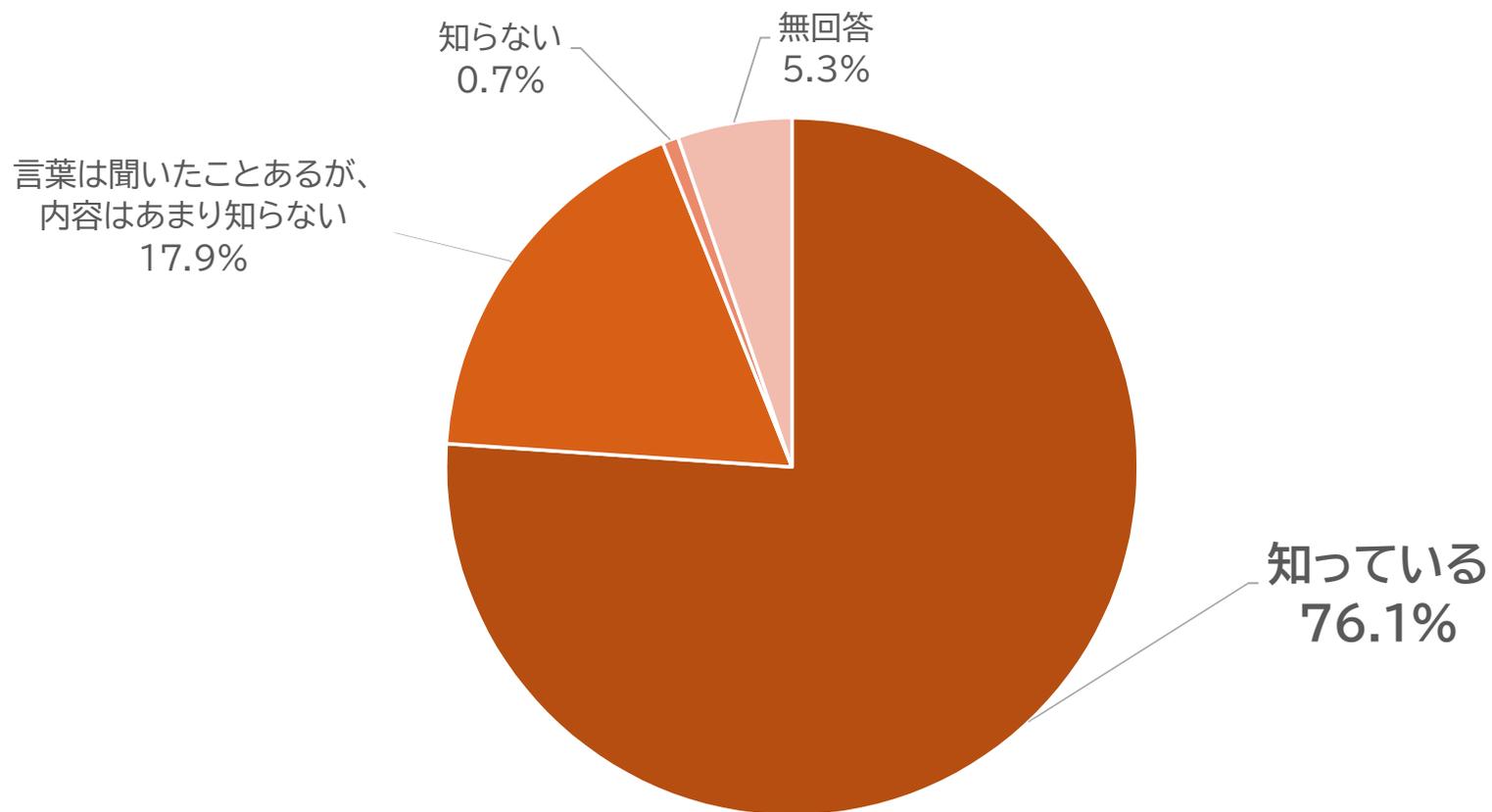
2 調査期間

令和6年5～7月

アンケート調査結果 [一般市民用]

○ 終活について

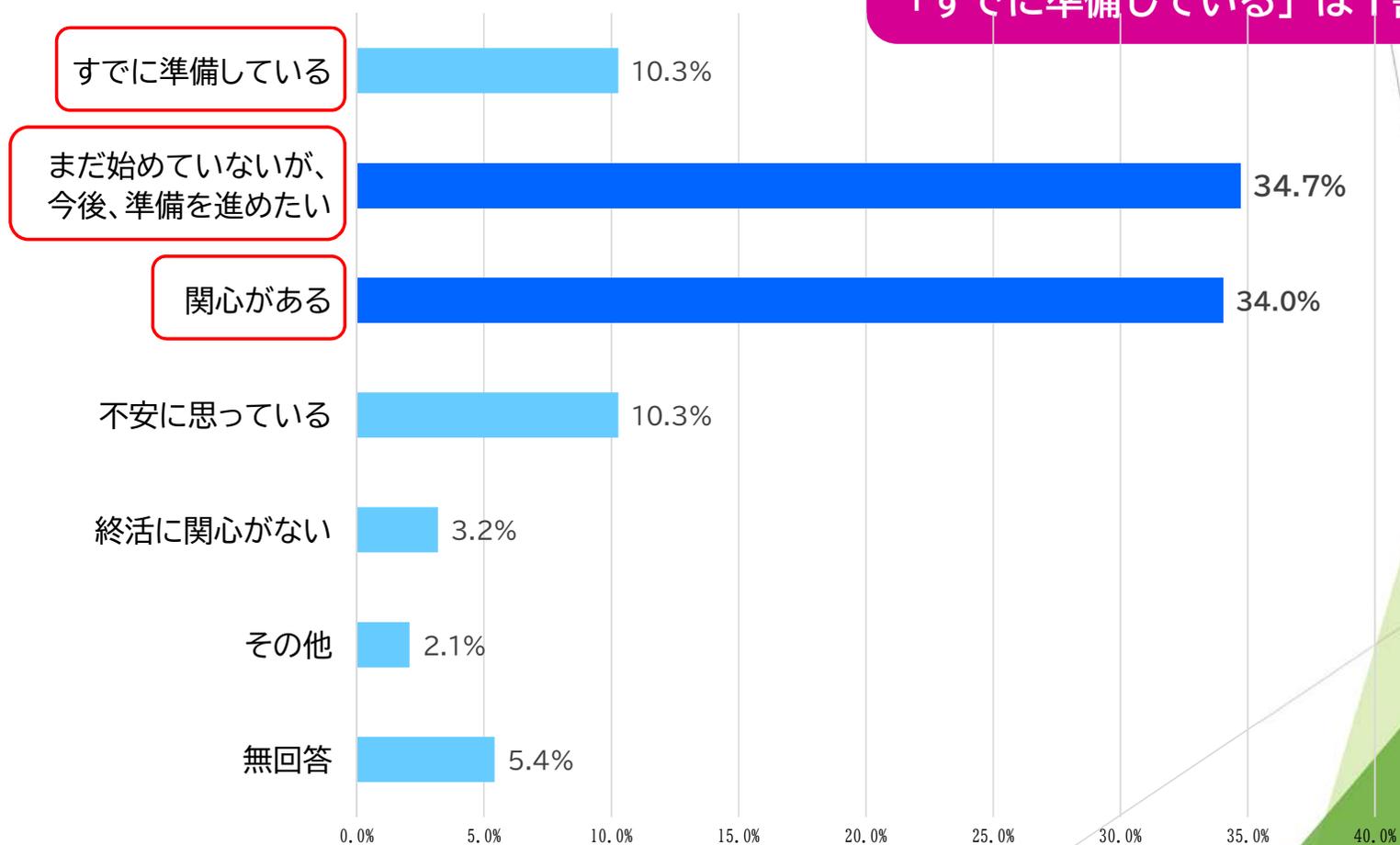
終活とはどのようなものか「知っている」は約8割で、「言葉を聞いたことがある」を含めると94%



アンケート調査結果 [一般市民用]

○ 終活への関心（複数回答）

それぞれ3割を超える高齢者が「準備を始めたい」「関心がある」で、「すでに準備している」は1割程度



アンケート調査結果 [一般市民用]

○ すでに準備している終活の内容

「エンディングノートへの記載・作成」は2割超で、次に「お墓の準備」、「葬儀場の手配」が上位を占める

エンディングノートへの記載・作成

21.7%

相続の手続き
(遺言書の作成等)

8.8%

お墓の準備

16.5%

葬儀場の手配

15.3%

上記以外で事業者と契約締結

1.7%

その他

16.3%

無回答

19.6%

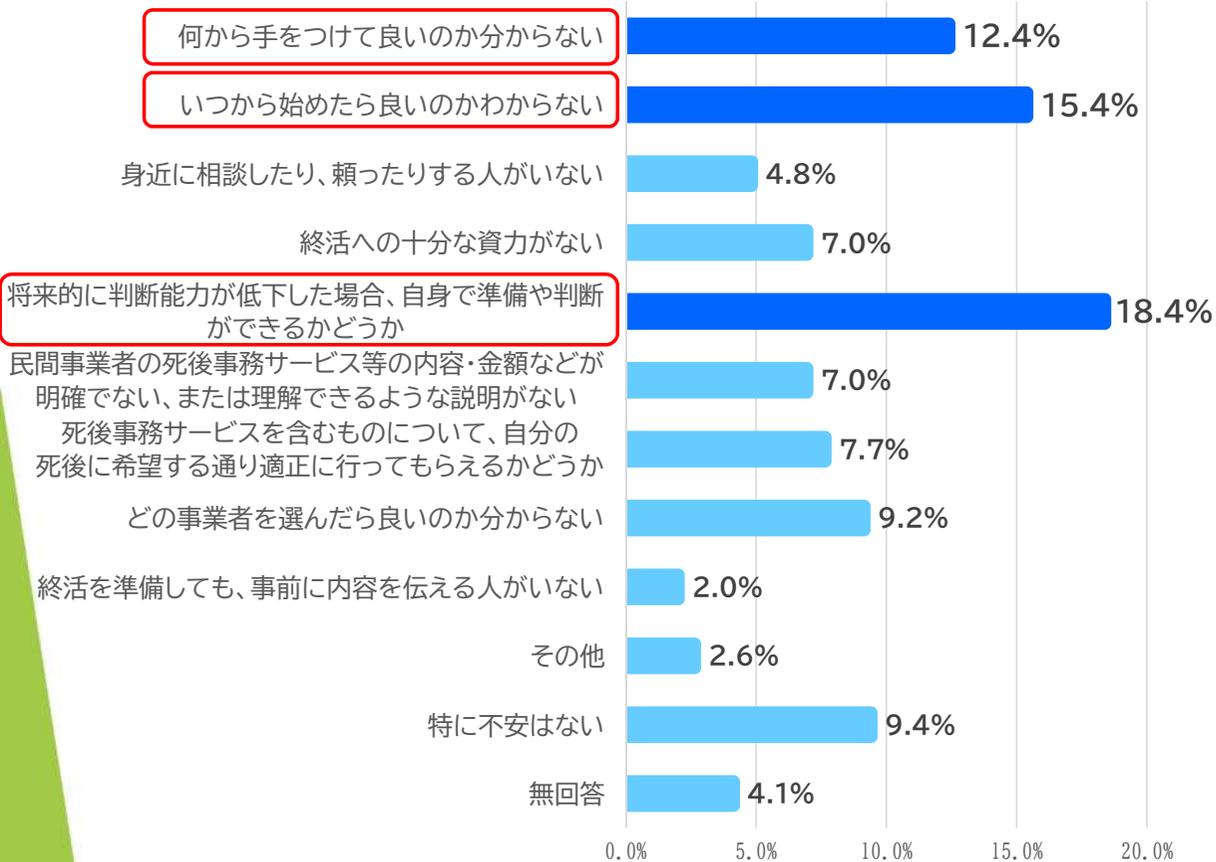
0.0% 5.0% 10.0% 15.0% 20.0% 25.0%

アンケート調査結果 [一般市民用]

○ 終活の準備にあたって・・・

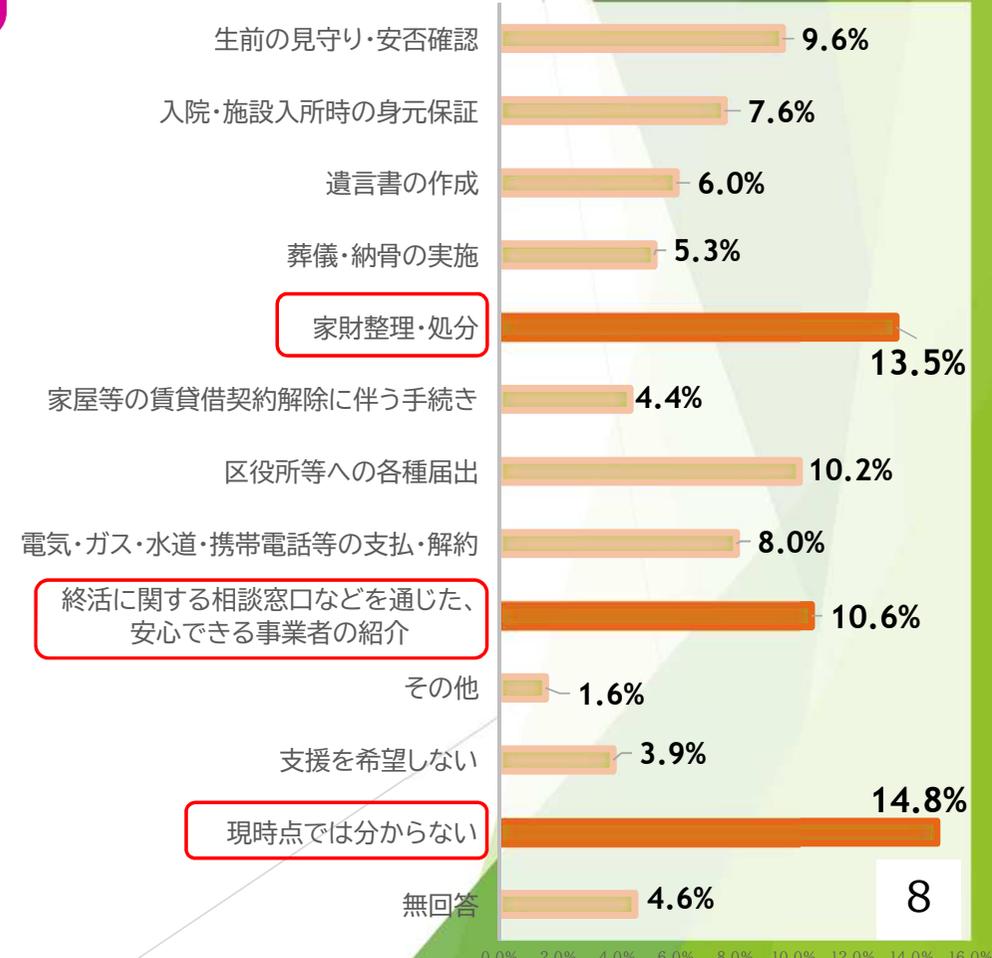
【不安に思っていること】

不安は「判断能力が低下した場合の準備や判断」、「始める時期」、「始める順番」が上位



支援内容は「現時点で分からない」「家財整理・処分」、「窓口を通じた安心できる事業者の紹介」が上位

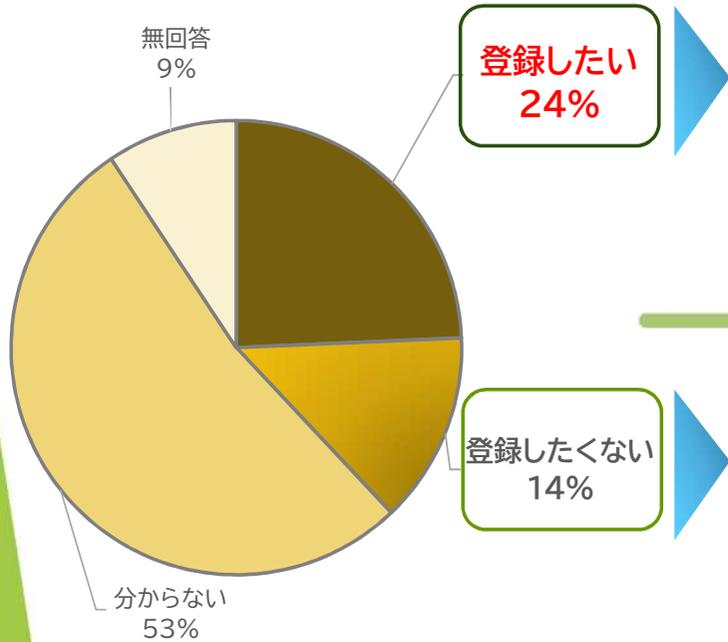
【支援してほしいこと】



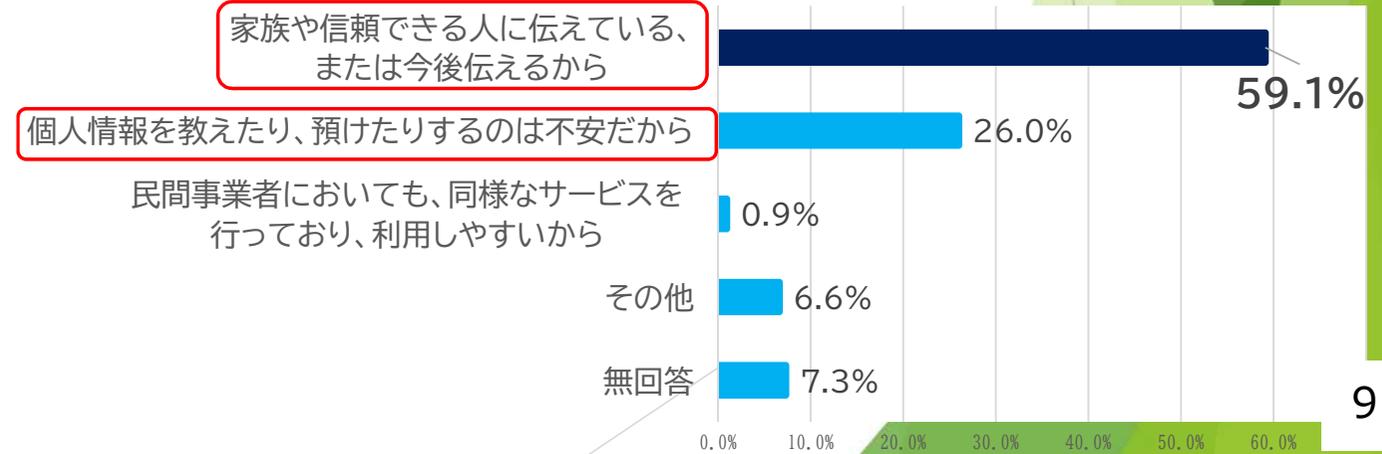
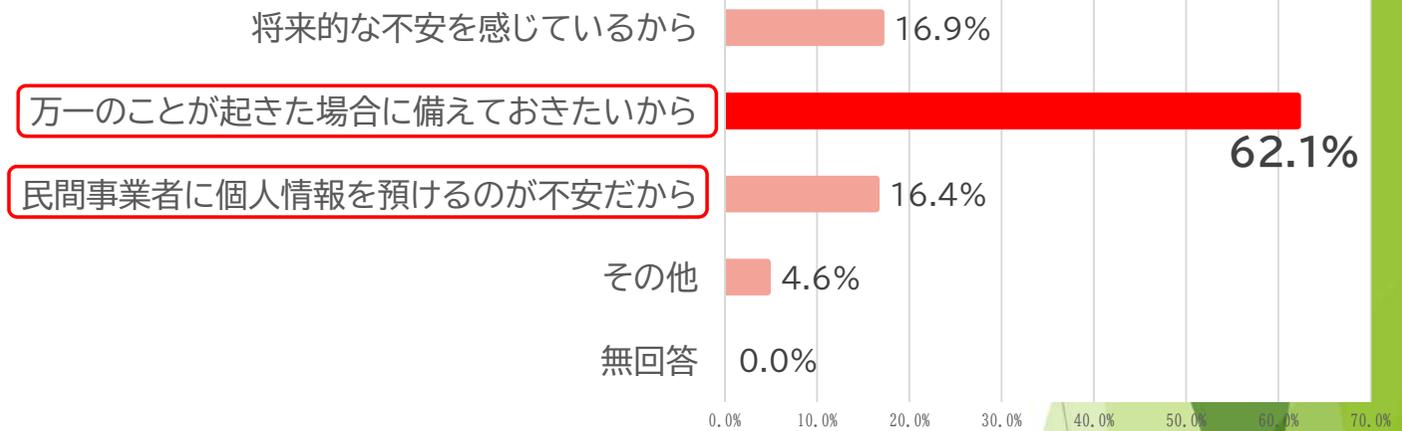
アンケート調査結果 [一般市民用]

○ 終活情報の登録制度の利用意向

【ご自身の終活情報を登録する取組みを北九州市で実施した場合、あなたは登録を望みますか】



登録したいか、したくないかの二択では「登録したい」が多いものの、回答者のうち半数以上が「分からない」と回答



アンケート調査結果 [支援者用]

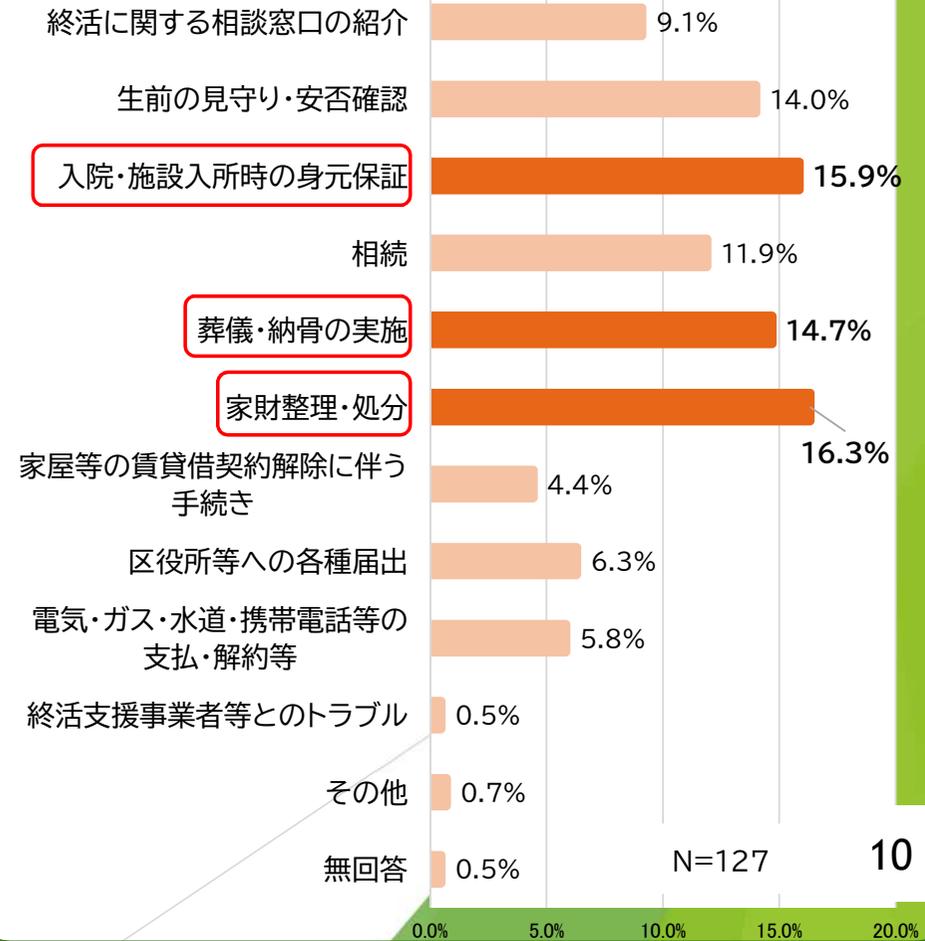
○終活について、市民や利用者の方から相談を受けたことがあるか

終活相談を受けたことが「ない」がやや多い

◎相談内容上位3つ

「家財整理・処分」「入院・施設入所時の身元保証」「葬儀・納骨の実施」

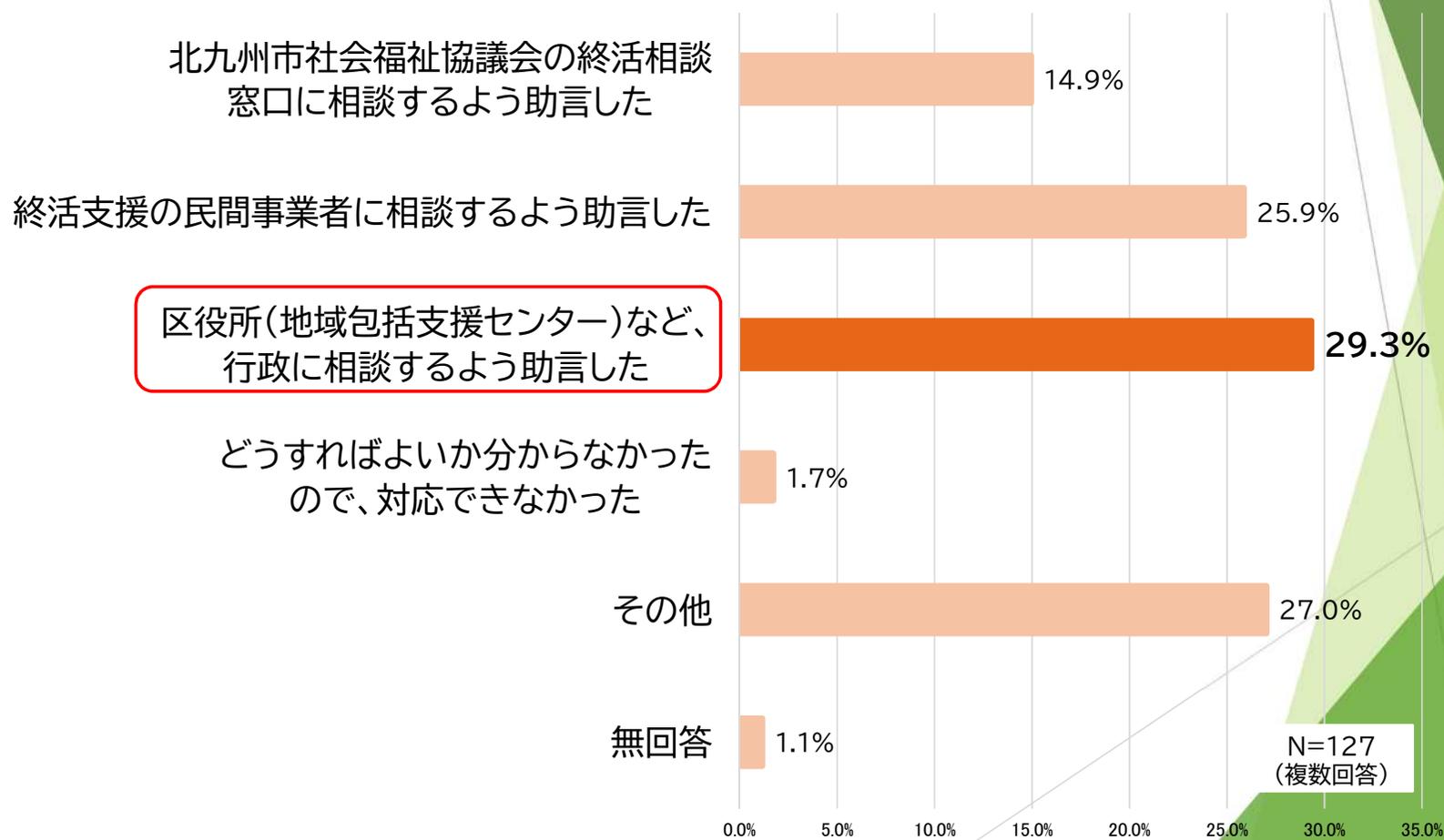
	民生委員・児童委員	弁護士	司法書士	社会福祉士	医療機関関係者	介護事業関係者	その他	無回答	合計
	119	11	10	13	2	107	1	0	263
	45.2%	4.2%	3.8%	4.9%	0.8%	40.7%	0.4%	-	
ある	32	9	8	12	1	64	1	0	127 (48.3%)
ない	87	2	2	1	1	43	0	0	136 (51.1%)



アンケート調査結果 [支援者用]

○ 終活相談における対応(複数回答)

約3割が「区役所(地域包括支援センター)など、行政に相談するよう助言した」

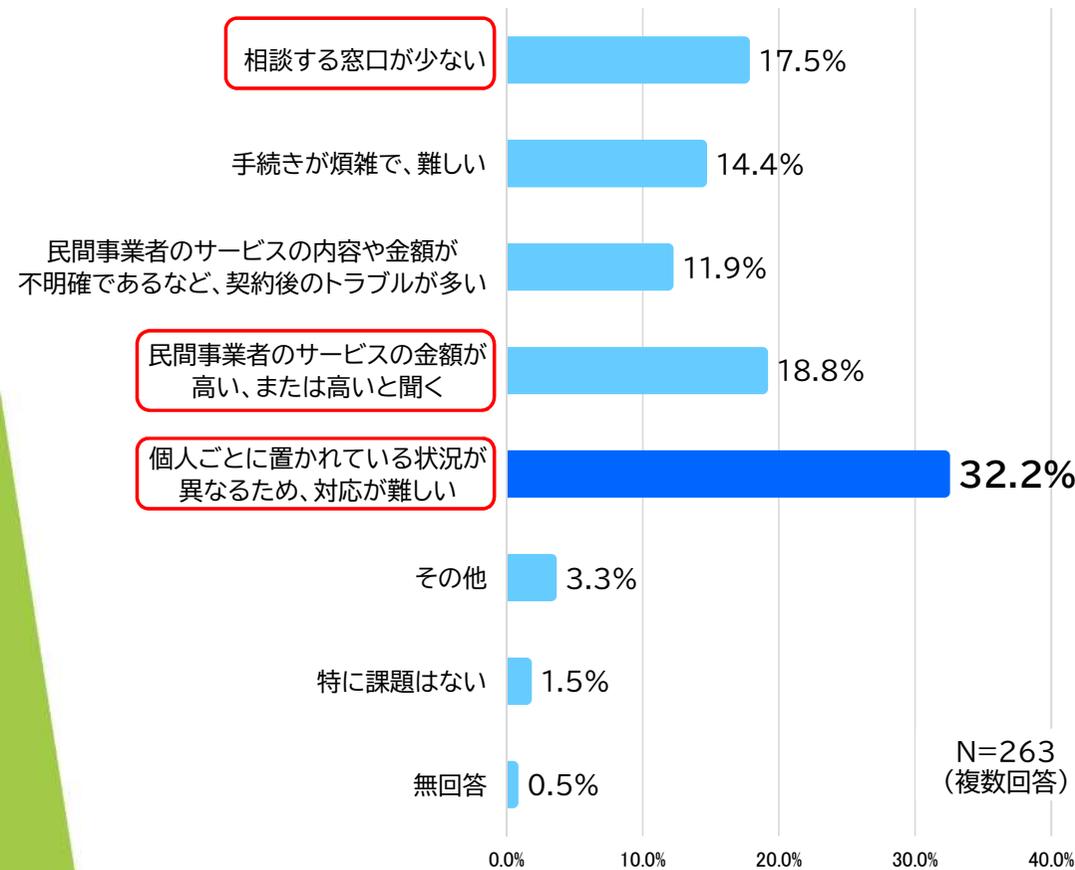


アンケート調査結果 [支援者用]

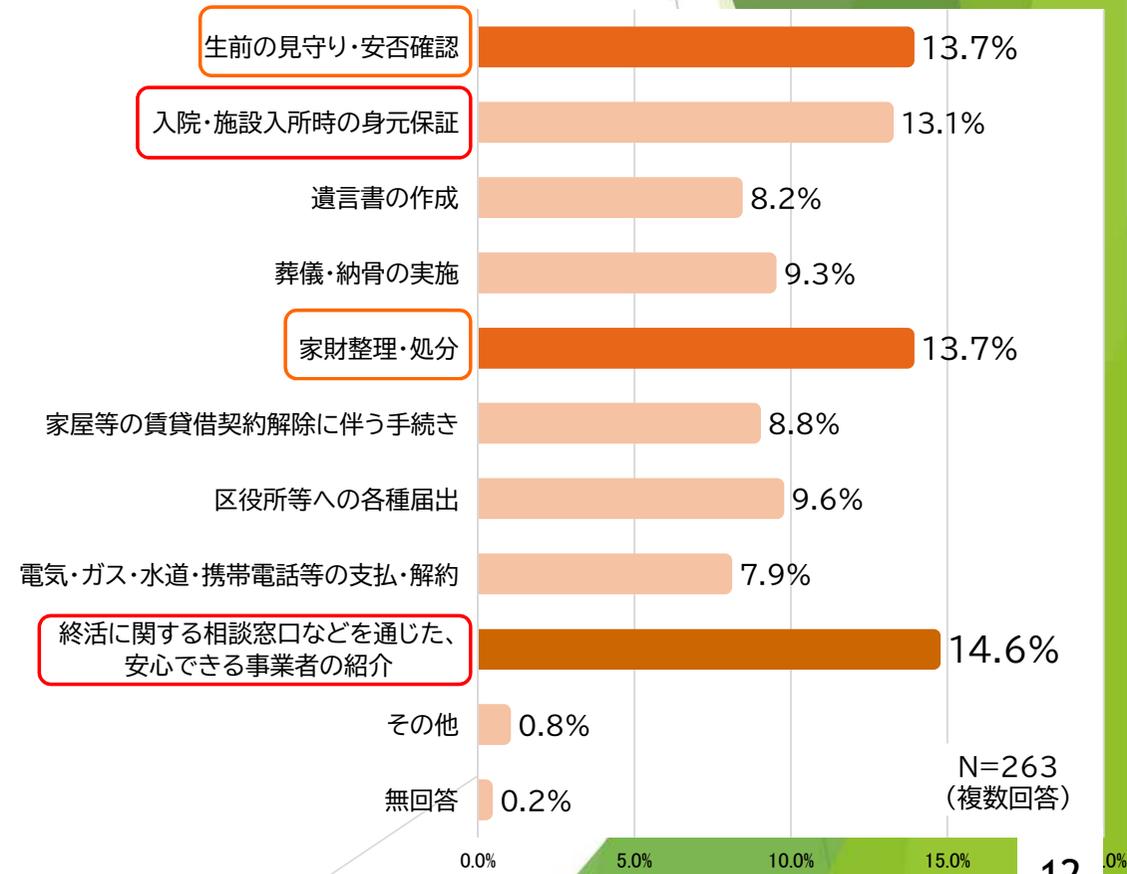
○ 終活の課題や必要な支援(複数回答)

終活の課題は、「個人ごとの状況が異なるための対応の難しさ」
必要な支援は、「安心できる業者の紹介」「家財処分」「安否確認」等

【どのような課題があると思うか】



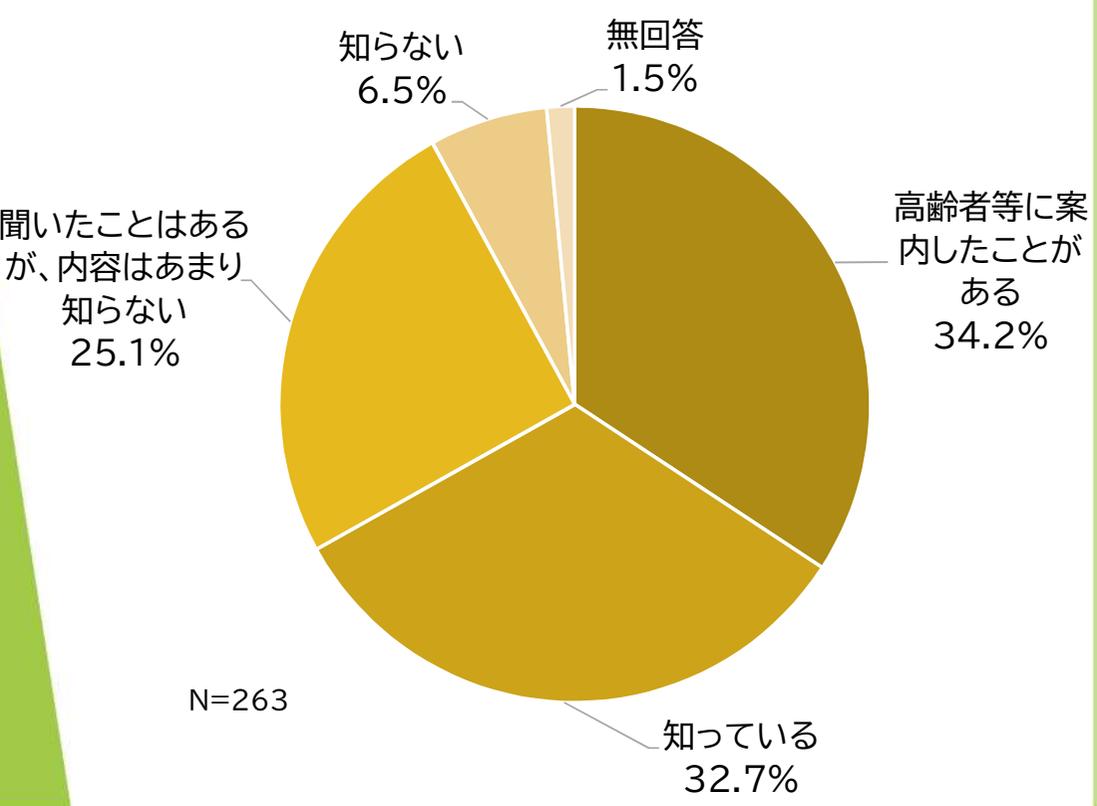
【どのような支援が必要だと思うか】



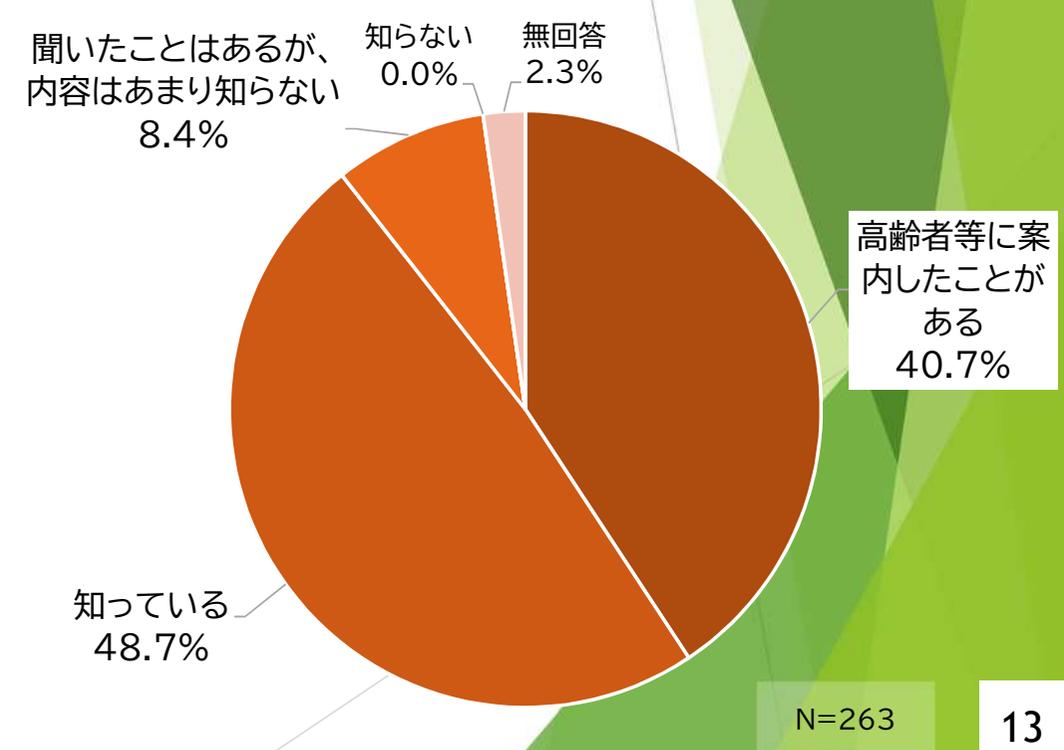
アンケート調査結果〔支援者用〕

「地域福祉権利擁護事業」を「高齢者等に案内したことがある」「知っている」合わせた割合66.9%
「成年後見制度」を「高齢者等に案内したことがある」「知っている」合わせた割合89.4%

○ 「日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）」の認知度



○ 「成年後見制度」の認知度



アンケート調査結果[支援者用]

○ 終活支援の今後のあり方について（自由意見）【抜粋】

民生委員・児童委員

- ・身寄りがなく、所得の低い人にどのような終活支援があるのか教えてほしい。
- ・終活に関する研修会や講演会を実施してほしい。
- ・本人にどのように手を差し伸べたらよいか不安。

弁護士

- ・問題はお金のない方の終活で、これについては行政に対応してもらえない。
- ・それぞれ異なる問題や課題を抱えているので、それに応じた相談窓口や制度があるとよい。

司法書士

- ・死後事務に関する支援について、身元保証の問題にも対応できる体制が必要。
- ・民間事業者に関する規則や定めがないため、責任を持って最後まで死後事務を行うのか不安。また、高齢者本人も、よく理解しないで契約しているケースが多い。

アンケート調査結果[支援者用]

○ 終活支援の今後のあり方について（自由意見）【抜粋】

社会福祉士

- ・ 裕福な高齢者は民間のサービスを利用できるが、低所得の高齢者が利用できる終活支援サービスがないので、その部分を公的機関が担うとよい。
- ・ 社会福祉協議会が行っている終活事業の体制整備及び業務内容の啓発をしてほしい。
- ・ 高齢者の中には、認知症ではないが身寄りのない人もいるので、利用しやすい仕組みづくりをしてほしい。

介護事業関係者

- ・ 終活支援について、金銭に余裕のある方は民間事業者へ繋ぐことができるが、低所得の方は民間事業者へ繋ぐことができないため、公的な機関が必要。
- ・ 料金が明確で安い事業者がいれば、安心して紹介や対応が可能となる。
- ・ 終活支援に関する制度や相談窓口を紹介するパンフレットがあればよい。

3 ヒアリング調査結果

資料3 机上配布

4

終活支援の方向性

終活支援の方向性(アンケートからみられた課題と望まれる支援)

1 一般市民

課題

- ・ 現状で、終活の準備をしている人は1割程度（エンディングノート、お墓・葬儀場の準備等）
- ・ 将来、判断能力が低下した場合、自分で終活の準備ができるか不安
- ・ 終活の準備について、いつから、何から始めたら良いのか分からない



望まれる支援

自分らしく、今後の人生を前向きに生きるために、

- ・ 終活について、安心して相談できる窓口が必要
- ・ 終活についての理解や準備を進めるよう啓発が必要

〈終活情報の登録制度について〉

登録したいが約2割の一方、分からないが半数以上を占めているため、登録制度については今後も慎重な検討が必要。

終活支援の方向性(アンケートからみられた課題と望まれる支援)

2 支援者

課題

- ・ 個人ごとに状況が異なるため、相談対応が困難
- ・ 一部の民間事業者については、契約内容や金額が分かりづらかったり、死後にサービスが本当に実施されるか不安がある
- ・ 低所得者の方が利用できる終活支援サービスがない
- ・ 死後事務に関する支援について、身元保証の問題にも対応できる体制が必要



望まれる支援

- ・ 専門的な領域の相談をフォローできるしくみが必要
- ・ 終活支援サービスの適正な事業実施を促すしくみが必要
- ・ 身元保証を含めた低所得者用の終活支援サービスが必要

終活支援の方向性

1 安心して終活できる環境の整備

(例)

安心して相談できる窓口、終活に向けた市民周知・啓発、
終身サポート事業者への啓発 など

終活支援の方向性

2 身寄りのない人や資力のない人向け終活支援サービスの実施

(例)

死後事務委任の支援、身元保証や見守りなどを含めた
終活支援の一体的推進 など

3 その他



多くの貴重なご意見
ありがとうございました。

次回・第3回の検討会は10月15日（火）
に開催します。

【次回の議事（予定）】

- 終活支援に携わる関係者によるネットワークの形成
- 高齢者が安心して相談できるしくみの構築 等